

「ポイントで学ぶ電気回路 一直流・交流基礎編」 正誤表

刷数	頁	箇所	誤	正
1, 2	16	6行目	式(1.21)より,	式(1.12)より,
1, 2	16	ポイントの 2行目	$r = R$	$R = r$
1, 2	16	式(1.27) 右辺の分母	$4R$	$4r$
1, 2	17	13行目	$r = R$	$R = r$
1	41	下から 7行目	a, e 間の電流	a, e間の電圧
1, 2	61	式(3.33)の 中辺	$ W_{Lave} = \left \frac{1}{T} \int_0^{\frac{T}{2}} W_L dt \right = \sqrt{\frac{1}{2} LI^2 \left(-\frac{1}{2} LI^2 \right)} =$ とする。	
1, 2	65	9行目	$= \frac{1}{\omega C}$ R	$= -\frac{1}{\omega C}$ R
1, 2	65	式(3.48)の 第1式右辺	$= \cos \theta$	$= \cos(-\theta)$
1, 2	66	図3.11	θ	$-\theta$
1, 2	67	例図3.2	v の実線のサインカーブは、 $\omega t = 0$ が-6から始まり、 $\omega t = 0.79$ で $v = 0$ を通る線にする。 $\omega t = 0.79$ 以降は現在と同じ。	
1, 2	77	上から二つ 目のポイント	V と I の位相差 θ の… といい、 $-90^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ の範囲をとる。	v と i の位相差 θ の…と いい、 $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ 、 $0 \leq$ $\cos \theta \leq 1$ の範囲をとる。
1, 2	83	5行目	複素数表示(ベクトル表示 または…)	複素数表示(フェーザ表示, ベクトル表示または…)
1	85	下から 1行目	極形式(polar form)または	削除
1	86	3行目	この表し方をフェーザ形式(phasor form)と呼ぶ。	右辺の表し方を極座標形式(polar form)と呼ぶ。
1	92	ポイント(iii)	位相の基準($\varphi = 0$)は一般に電圧とし、	位相の基準($\varphi = 0$)は電圧とする場合が多く、
1, 2	116	下から 3行目	…、極形式、およびフェーザ形式で表せ。	…、極座標形式、および指数関数形式で表せ。
1	123	図5.5	(a) $M > 0$ の場合 (b) $M < 0$ の場合	(a) $+M$ の場合 (b) $-M$ の場合
1, 2	197	索引	極形式 84, 85	極座標形式 86
1, 2	198	索引	指数関数形式 86	指数関数形式 85
1, 2	199	索引	フェーザ形式 86	フェーザ表示 83

①, ②

最新の正誤表がコロナ社ホームページにある場合がございます。
 下記URLにアクセスして[キーワード検索]に書名を入力して下さい。
<http://www.coronasha.co.jp>